

2025年12月18日

*** 2026年（令和8年） ***

ビジネスパーソンの年賀状に関するアンケート調査

株式会社パイロットコーポレーション（社長：藤崎 文男）は、日本のお正月の習慣で手書き文化の象徴とも言える年賀状をテーマに、毎年『ビジネスパーソンの年賀状に関するアンケート調査』を行っています。様々なツールが登場した現在も、年賀状は普段会えない人へのコミュニケーション手段として、一定の支持を集めています。今回で46回目となる本調査は、ビジネスパーソンを対象に11月7日（金）から約3週間にわたり調査を実施し、主な調査結果は下記となりました。

【主な調査結果】

- 年賀状を「出す」人は減少傾向でついに4割を割り込む。年賀状を「出す」人は「新年の挨拶」が目的。
- 年賀状を出す枚数は平均「33枚」で減少傾向。「年賀状じまい」など年賀状を取り巻く環境は変化しながらも、今でも「年賀状」は届くうれしいもの。
- 年賀状をもらってうれしい相手は「友人・知人」。もらってうれしい年賀状は「手書きのコメント」があるので、気になる点も「メッセージの内容」で年賀状のメッセージを気にする人多数。
- 年賀状を出す人の9割以上が「手書き箇所あり」。年賀状の手書きは気持ちを伝えることや個性が表現できると考えている人が多数。自分では年賀状を出すことに消極的な人が増えつつある一方で、9割以上の人人が「手書きの年賀状」をもらうと「うれしい」と感じている。
- 「年賀状」は「必要」と考えている人が半数を割り込む。しかし、翌年以降の年賀状を辞退する旨を伝え、年賀状を出すことをやめる「年賀状じまい」はまだ7割以上が「実施せず」。

———— 報道関係者からのお問い合わせ先 ————

株式会社パイロットコーポレーション（代表）

Tel. 03-3538-3700

〒104-8304 東京都中央区京橋 2-6-21

【アンケート実施概要】

調査期間 : 2025年11月7日(金)～12月1日(月)

サンプル数(概数) : 396人

年代別サンプル比 :

年齢	男性	女性	合計
20代	24	48	72
30代	36	60	96
40代	32	48	80
50代	40	48	88
60代	40	20	60
計	172	224	396

調査対象 : 企業・団体等に勤務する20代～60代のビジネスパーソン

調査方法 : 質問用紙の配付・回収による無記名留置調査

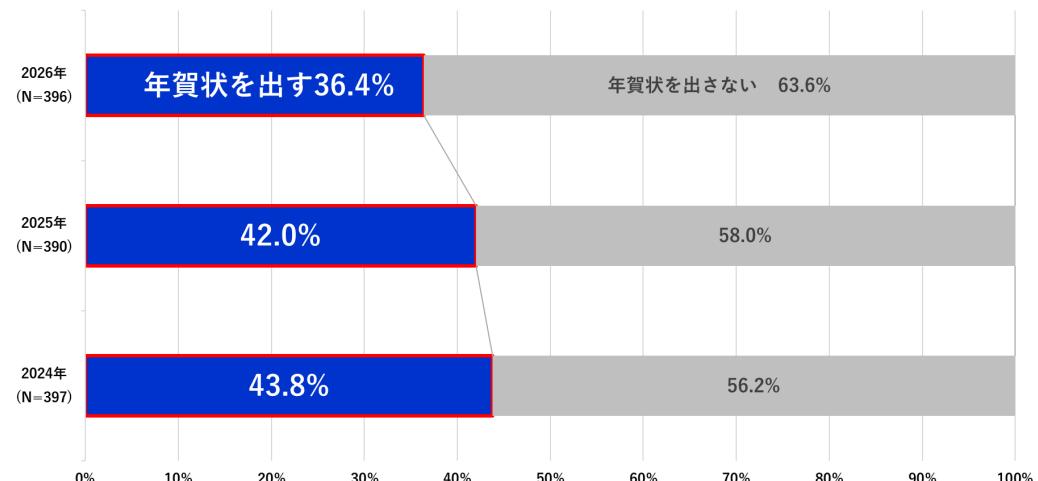
- * 集計データのうち注釈なきものはすべて単数回答を百分率化しました。
- * 単一回答でも小数点の都合上合計値が100%にならないものもあります。
- * 複数回答可の設問では合計値が100(%)を超える。

※過去の「ビジネスパーソンの年賀状に関するアンケート調査」をご希望の方は、広報部までご連絡ください。

1. 年賀状を「出す」人は減少傾向でついに4割を割り込む。年賀状を「出す」人は「新年の挨拶」が目的。「出さない」理由は、「LINE等メッセージアプリで代用」が最も多い。

2026年の年賀状を出す予定<年賀状の予定 1-1>では、年賀状を「出す」と答えた人は36.4%となり、昨年に比べ5.6ポイント減となりました。日本郵便の発表した2026年(令和8年)の年賀状発行枚数は7.5億枚と昨年対比30.1%減と大きく減らしたことが明らかになりましたが、年賀状を出す人が減っていることはこの結果からもうかがえます。

1-1.来年、年賀状(郵便)を出す予定ですか？



<年賀状を出す理由 1-2>では、「新年の挨拶として」(66.7%)、「日頃、御無沙汰しているので」(47.2%)、「親しさを表すしるしとして」(30.6%)がトップ3となりました。一方、<年賀状の予定 1-1>で、年賀状を「出さない」と

答えた人に＜年賀状を出さない理由 1-2＞を聞いてみると、「LINE 等メッセージアプリで代用」(65.1%)がトップとなりました。

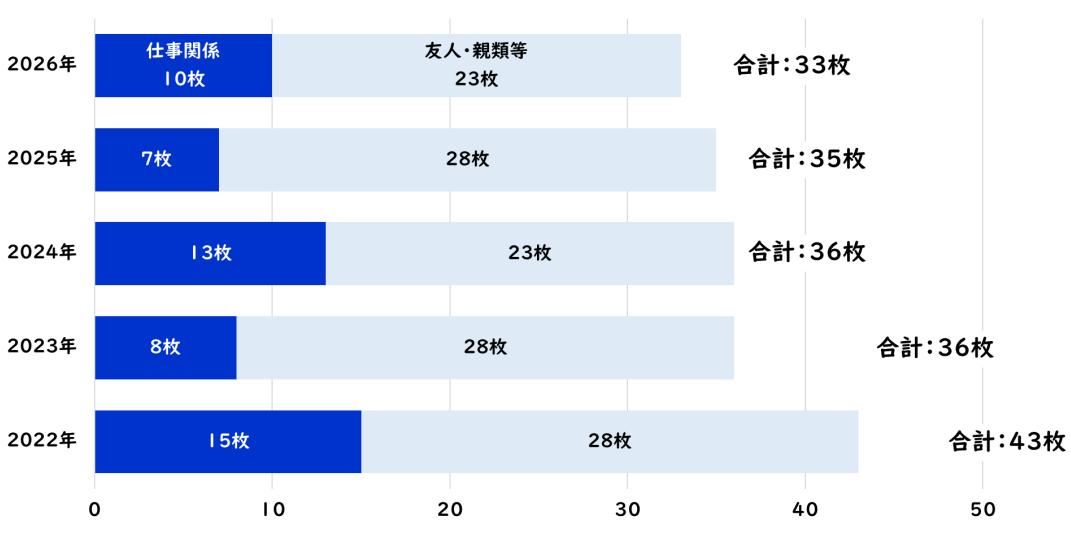
1-2. 年賀状を出す理由 (N=144) 、出さない理由 (N=252) 複数回答

	出す理由	2026年	2025年	出さない理由	2026年	2025年
第1位	新年の挨拶として	66.7%	71.3%	LINE等メッセージアプリで代用	65.1%	65.6%
第2位	日頃、御無沙汰しているので	47.2%	52.3%	SNSで代用	47.6%	15.0%
第3位	親しさを表すしるしとして	30.6%	23.8%	準備が面倒	42.9%	50.6%
第4位	お世話になっている（なった）ので	25.0%	28.5%	年賀状を出すことをやめた	25.4%	-
第5位	近況報告	22.2%	34.9%	出す習慣がない	22.2%	21.9%
第6位	手紙をやり取りする貴重な機会	22.2%	17.4%	忙しくて用意できない	19.0%	23.0%
第7位	毎年、年賀状をもらうので	22.2%	38.0%	メールで代用	17.5%	10.4%
第8位	義理・しがらみで	19.4%	12.7%	出す相手がない	12.7%	25.3%
第9位	習慣で・なんとなく	16.7%	28.5%	相手の住所がわからない	9.5%	19.6%
第10位	年賀状をもらうのが好き	8.3%	12.7%	郵便代の値上げなどコストがかかるため	6.3%	13.8%

2. 年賀状を出す枚数は平均「33 枚」で減少傾向。翌年以降の年賀状を辞退する旨を伝え、年賀状を出すことをやめる「年賀状じまい」など年賀状を取り巻く環境は変化しながらも、今でも「年賀状」は届くとうれしいもの。

＜年賀状を出す枚数 2-1＞は、平均「33 枚」となり、昨年の調査より微減という結果になりました。過去 5 年を見ても、減少傾向が続いている。なお、今回の調査での年賀状を出す予定枚数の最多は 60 代男性の「150 枚」となりました。

2-1. 年賀状を出す枚数は、何枚くらいを予定していますか？ (数値自由回答 N=144)



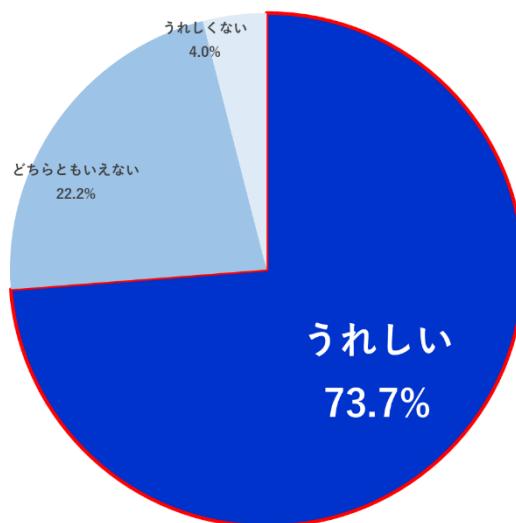
＜新年の挨拶でもらってうれしい方法 2-2＞の問い合わせには、「LINE 等メッセージアプリ」(78.6%)がトップ、次いで「年賀状」(60.6%)になりました。新年の挨拶は「LINE 等メッセージアプリ」がメインですが、年賀状も一定の支持があることがわかります。

2-2. 新年の挨拶で、一番もらってうれしいのはどの方法ですか？（複数回答N=396）

第1位	LINE等メッセージアプリ	78.6%
第2位	年賀状	60.6%
第3位	メール	20.2%
第4位	電話	13.1%
第5位	Instagram	11.1%

また、実際に＜年賀状が届くとどう感じるか 2-3＞を聞いてみると、73.7%の人が「うれしい」と回答し、出す枚数は引き続き減る傾向にありますが、年賀状をもらうことは今でも「うれしい」と感じる人が多いようです。

2-3. 年賀状が届くとどう感じますか？（複数回答N=396）



3. 年賀状をもらってうれしい相手は「友人・知人」。もらってうれしい年賀状は「手書きのコメント」があるもの、気になる点も「メッセージの内容」で年賀状のメッセージを気にする人多数。

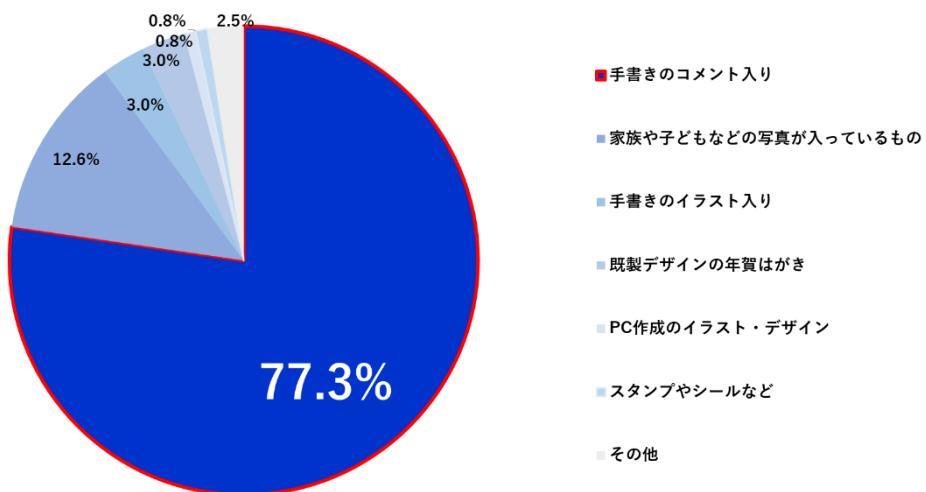
具体的に<年賀状をもらって一番うれしい相手 3-1>を聞いてみると、「友人・知人」(51.0%)がトップで、次いで「親類関係」(17.7%)、「特にいない」(12.6%)という結果になりました。

3-1. 誰からもらう年賀状が一番うれしいですか？（単一回答 N=396）

第1位	友人・知人	51.0%
第2位	親類関係	17.7%
第3位	特にいない	12.6%
第4位	学生時代の先輩・後輩	9.1%
第5位	社外の仕事関係者	2.8%
第6位	恩師・恩人	2.8%
第7位	その他	2.0%

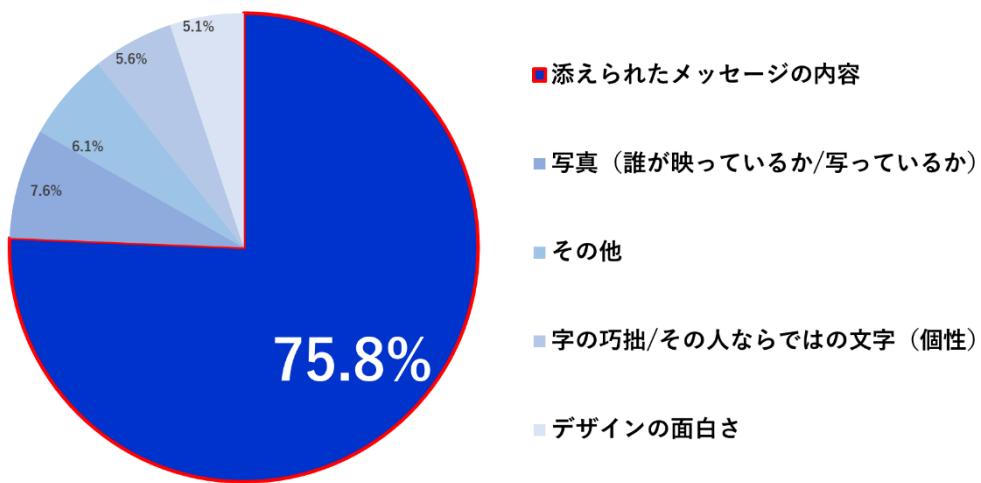
<届いてうれしい年賀状のタイプ 3-2>を聞いてみると、「手書きのコメント入り」(77.3%)が多くの支持を集めトップとなり、次いで、「家族や子どもなどの写真が入っているもの」(12.6%)、「手書きのイラスト入り」(3.0%)などのオリジナルの内容や近況がわかる写真入りの年賀状の人気が高いことがわかりました。

3-2. 届いてうれしい年賀状のタイプはなんですか？（単一回答 N=396）



また、<届いた年賀状のどこが一番気になるか 3-3>では、「添えられたメッセージの内容」(75.8%)が年賀状で気にしている人が多いことがわかりました。

3-3. 届いた年賀状のどこが一番気になりますか？（単一回答 N=396）



4. 年賀状は「友人・知人」や「親類関係」など身近な人に出したい。出したくない相手としては上司や同僚、取引先など変わらず「仕事関係」が上位に。

<誰に年賀状を出すか 4-1>を尋ねると、「友人・知人」(86.8%)がトップになり、次いで「親類関係」(52.8%)も半数以上の支持を集め、身近な人とのやり取りに年賀状を活用することがうかがえます。「恩師・恩人」(第3位:30.6%)、「学生時代の先輩・後輩」(第5位:19.4%)など、長い付き合いのある、お世話になった人に年賀状を出すという声も見られました。

4-1. 誰に年賀状を出しますか？（複数回答 N=144）

第1位	友人・知人	86.8%
第2位	親類関係	52.8%
第3位	恩師・恩人	30.6%
第4位	会社等の上司・先輩	25.0%
第5位	学生時代の先輩・後輩	19.4%
第6位	会社等の同僚・後輩	16.7%
第7位	社外の仕事関係者	5.6%
第8位	年賀状友達	5.6%

また、<できれば年賀状を出したくない相手 4-2>について聞いてみると、半数近くが「出したくない人はいない」(48.5%)と回答しました。次いで、「会社等の上司」(36.4%)、「会社等の同僚」(26.3%)、「取引先」(22.2%)、「部下」(17.2%)と仕事関係がランクインしました。

4-2. 年賀状を出したくない相手は誰ですか？（複数回答N=396）

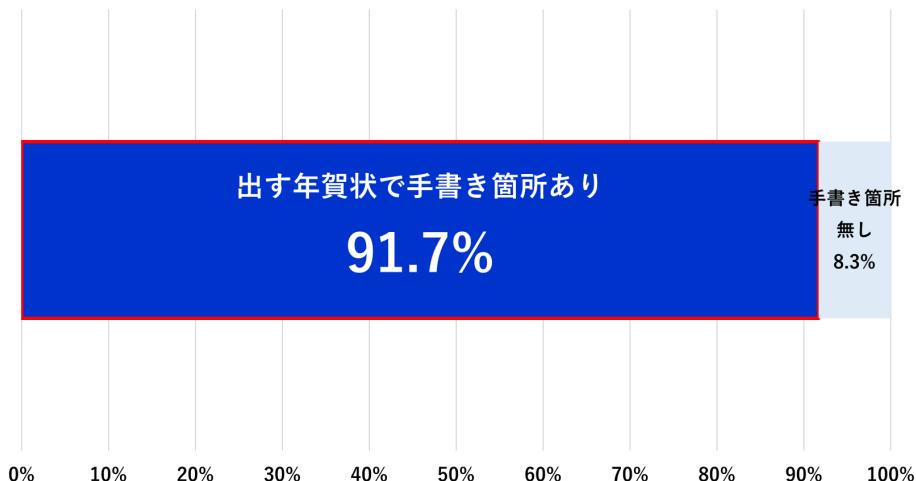
参考：2025年

第1位	出したくない人はいない	48.5%	50.8%
第2位	会社等の上司	36.4%	30.8%
第3位	会社等の同僚	26.3%	25.4%
第4位	取引先	22.2%	24.1%
第5位	部下	17.2%	18.7%
第6位	親類関係	12.1%	12.1%
第7位	年賀状友達	5.1%	7.4%
第8位	学生時代の先輩・後輩	4.0%	4.1%

5. 年賀状を出す人の9割以上が「手書き箇所あり」。年賀状の手書きは気持ちを伝えることや個性が表現できると考えている人が多数。自分では年賀状を出すことに消極的な人が増えつつある一方で、9割以上の人人が「手書きの年賀状」をもらうと「うれしい」と感じている。

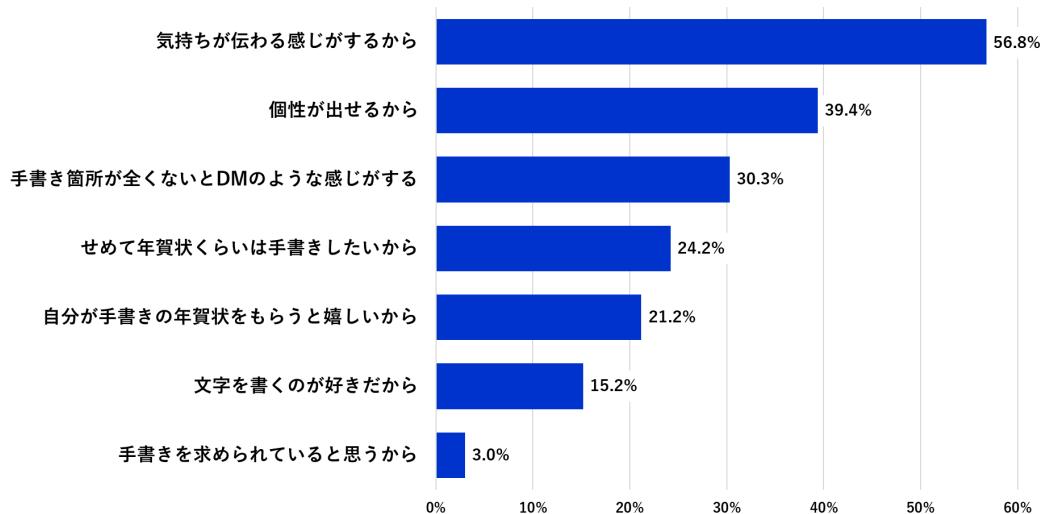
＜年賀状の手書き箇所の有無 5-1＞について、年賀状を出す人の多くが「手書き箇所がある」(91.7%)と多くの支持を集めました。出さない人が増えている年賀状ですが、出す人は手書きをする人が多いようです。

5-1. あなたが出す年賀状で手書きする箇所はありますか？（単一回答N=144）



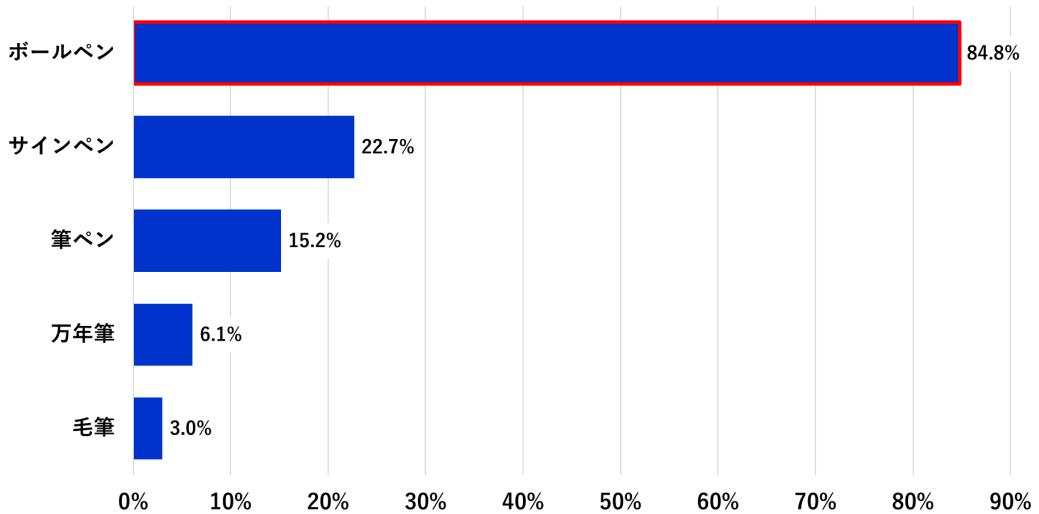
また、<手書き箇所がある 5-1>と答えた人(N=132)に、<手書きする理由 5-2>を聞くと、「気持ちが伝わる感じがするから」(56.8%)、次いで「個性が出せるから」(39.4%)が上位に入りました。年賀状は「手書き」することで、気持ちを伝えたり、個性を表現したりするツールであると考えている人は多いようです。

5-2. あなたが年賀状を手書きする理由はなんですか？（複数回答 N=132）



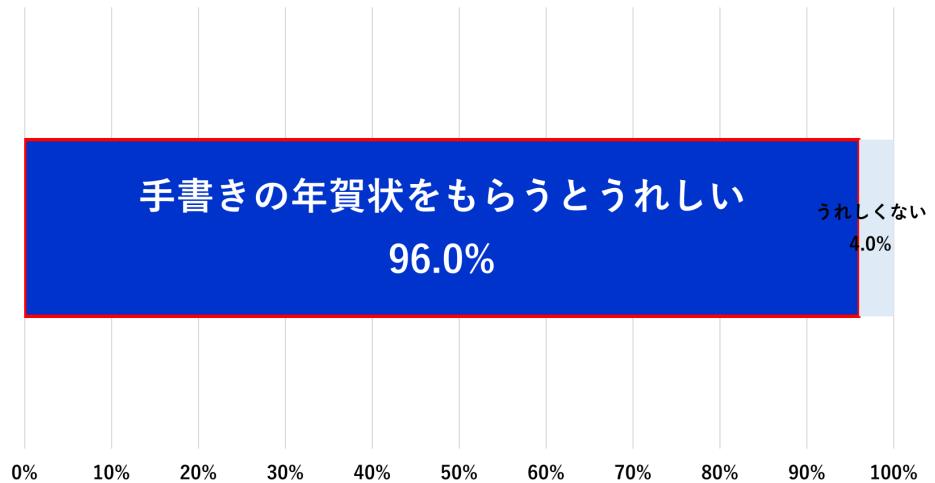
また、実際に、<手書きに使う筆記具はなにか 5-3>という質問では、インキの色や種類も豊富な「ボールペン」が84.8%と多くを占め、次いで「サインペン」(22.7%)、「筆ペン」(15.2%)が続きました。

5-3. あなたが年賀状を手書きに使う筆記具はなんですか？（複数回答 N=132）

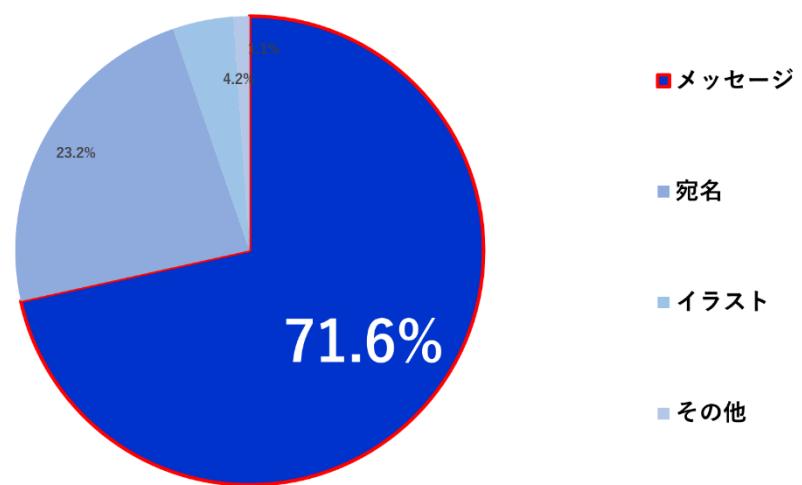


また、手書きの年賀状をもらうと嬉しいかを尋ねた<手書きの年賀状をもらうと嬉しいか 5-4>の問い合わせでは、96.0%の人が「手書きの年賀状をもらうとうれしい」と回答しました。手書きの年賀状をもらうと嬉しいと感じている人に<年賀状のどこが手書きされていると嬉しいか 5-5>という問い合わせを聞いてみると多くの人が「メッセージ」(71.6%)をあげており、年賀状に書かれているメッセージを楽しみにしている人が多いようです。

5-4.あなたは手書きの年賀状をもらうと嬉しいですか？（単一回答 N=396）



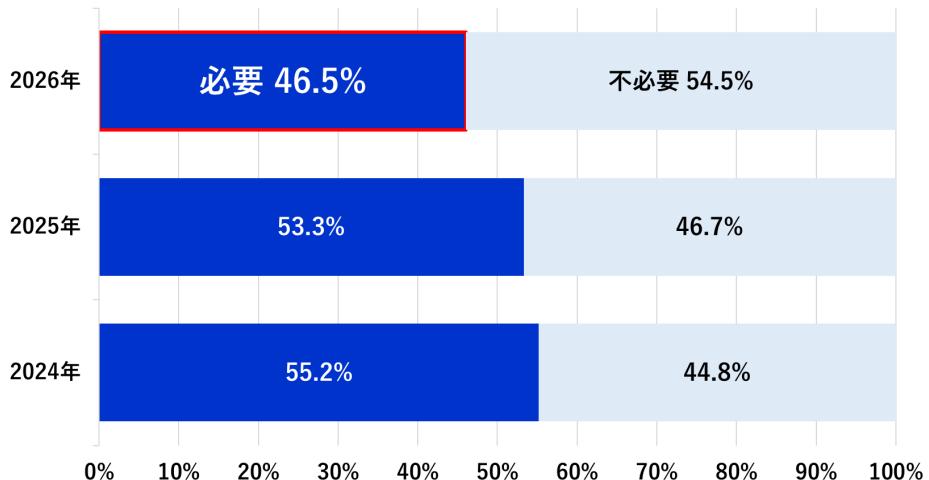
5-5.年賀状のどこが手書きされていると嬉しいですか？（単一回答 N=380）



6. 「年賀状」は「必要」と考えている人が半数を割り込む。しかし、翌年以降の年賀状を辞退する旨を伝え、年賀状を出すことをやめる「年賀状じまい」はまだ7割以上が「実施せず」と回答。

＜今後、年賀状の習慣は必要か 6-1>について尋ねたところ、ここ数年微減傾向で、昨年は 53.3% の人が「必要」感じていたのに対し、2026 年は半数を割り込む結果(46.5%)となりました。

6-1. 今後年賀状の習慣は必要だと思いますか？（単一回答 N=396）



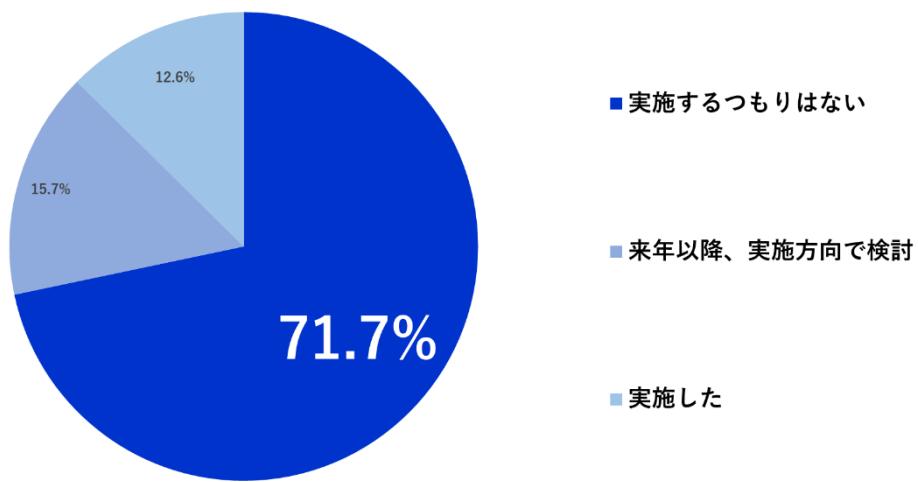
それぞれの理由を聞いてみると、「必要」(N=184)と答えた人の中で、「日本の伝統・文化が衰退する」(43.5%)がトップで、次いで「年賀状が届くと嬉しい」(41.3%)、「お正月らしくなくて寂しい」(41.3%)が続きました。もらってうれしいと感じる人や季節の風物詩として年賀状を考えている人がいることがうかがえます。一方、「不必要」(N=212)と答えた人の理由を聞くと、「準備する手間」(77.4%)や「SNS 等別の手段で代用」(58.5%)、「人間関係」(49.1%)を理由に「不必要」と考えていることがわかりました。

6-2. 今後年賀状の習慣は必要／不必要な理由はなんですか？（複数回答 N=396）

年賀状の習慣があった方がいいと思う理由 (N=184)			年賀状の習慣が不必要だと思う理由 (N=212)		
1位	日本の伝統・文化が衰退する	43.5%	1位	準備する手間が省けて楽になる（時間やコスト等）	77.4%
2位	年賀状が届くと嬉しい	41.3%	2位	SNS等別の手段で代用	58.5%
2位	お正月らしくなくて寂しい	41.3%	3位	「出すor出さない」といった人間関係で悩まなくてすむ	49.1%
4位	連絡をとるきっかけがなくなる	37.0%	4位	郵便代の値上げなどコストが気になる	18.9%
			5位	環境にやさしくない	5.7%

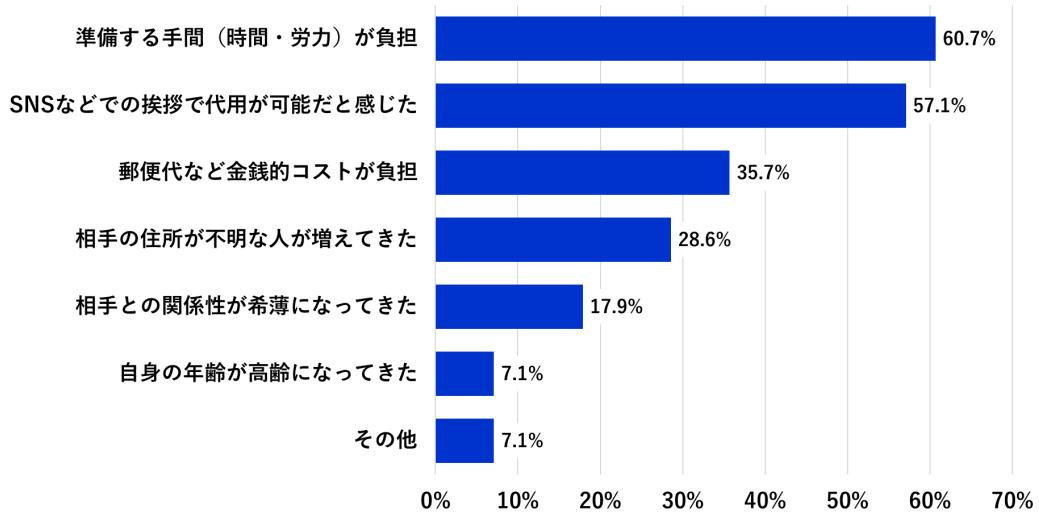
また、これまで続けてきた年賀状のやり取りを終える意思を伝える「年賀状じまい」について尋ねたところ、今回の回答者のうち 71.7% の人が「年賀状じまいを実施するつもりはない」と回答しました。

6-3. 年賀状じまいを実施しますか？（複数回答 N=396）



「年賀状じまい」を検討している人、すでに実施している人に、その理由＜年賀状じまいをする理由 6-4＞を聞いてみると、年賀状の習慣が不要と考えている人と同じように、「準備する手間が負担」(60.7%)、「SNS 等の挨拶で代用」(57.1%)が上位に入りました。

6-4. 年賀状じまいを実施する／検討する理由はなんですか？（複数回答 N=112）



「年賀状じまい」を検討している人、すでに実施している人に、その理由＜年賀状じまいをする理由 6-4＞を聞いてみると、年賀状の習慣が不要と考えている人と同じように、「準備する手間が負担」(60.7%)、「SNS 等の挨拶で代用」(57.1%)が上位に入りました。

これらの結果から実際に「年賀状じまい」を行う人は多くはないことがわかりましたが、「準備する手間が負担」や「SNS で代用できる」と考えている人は多く、デジタルコミュニケーションの普及に伴い、年賀状に影響を与えるさまざまな社会的要因が存在しています。年賀状は日本の文化として、そして年賀状にしかできないコミュニケーション手段として、時代の変化とともに、今後その価値を変えていくことが考えられます。